

学習成果の観点別評価による質保証システムの構築

① 専門職域(保育系)に対する全国アンケート調査
「新人保育者に必要な資質・能力」

② 「学習成果」

育成される力	達成目標
人間性 ①自己理解	自分の性格や行動の特徴を理解することができる。
②向上心	前向きに、自分のやるべきことの方角・目標を設定できる。
③表現力	自分の気持ち(感じたこと・考えたこと)を的確に把握し表現することができる。
社会性 ④人間関係力	他者の気持ちを理解しながら、積極的に他者と関わり、協力的に活動することができる。
⑤常識・教養	社会や文化、自然に対して積極的な関心を持ち、考えを深めることができる。
専門性 ⑥使命感	教育・保育に対する熱意を持ち、教員・保育者の役割を理解し、そのために必要となる姿勢・態度を持つことができる。
⑦子ども理解	子どもの心身の成長・発達に関する知識を基に、多様な子どもを理解し、その内面を汲みとることができる。
⑧教育・保育構想力	教育・保育内容を理解し、具体的な教育保育構想・計画を立てられるとともに、実践後は、それを振り返り、反省評価することができる。
⑨教育・保育実践力	子ども及び保護者と適切に関わるために必要な知識・技能を修得し、それを実践することができる。

③ シラバス例「国語科教育法」

授業科目名 国語科教育法

1. 授業の目的
小学校学習指導要領(国語)の理解と探究を通して、国語教育の課題とこれからの図を深く理解することで、国語教育者としての素地を形成する。また、国語教材の作成を行うとともに、具体的な授業場面を設定した模擬授業の実践を通して、実践的

2. 授業の内容、進め方と修得すべき事項

回	項目	内容	到達目標
1	小学校学習要領(国語)の理解と探究(1)	現在の国語科教育の概観(国語)の教育における位置づけ	国語科授業教育の重要性、学習指導要領の理解
2	小学校学習要領(国語)の理解と探究(2)	「目標」の変遷とその意味(領域構成)の機軸の学習の背景と意図	領域毎の到達目標の理解
3	小学校学習要領(国語)の理解と探究(3)	領域「B 書くこと」の系統理解	段階毎の到達目標の理解
4	小学校学習要領(国語)の理解と探究(4)	留意事項(毛筆書写、ローマ字、情報機器活用、学校図書館)に関する理解	留意事項の活用、学習
5	国語教材の系統理解(1)	文学的文章(物語・詩)学習の歴史の変遷、及び現代的意義と目標	文学教育の意義と目標
6	国語教材の系統理解(2)	説明文(説明文)学習の歴史の変遷、及び現代的意義と目標	説明文の活用、学習
7	国語教材の系統理解(3)	言語事項(語彙・漢字等)学習の意義と目標	言語事項の活用、学習
8	国語科学習指導案の理解と実践(1)	学習指導案の構成を知る	授業構想の理解
9	国語科学習指導案の理解と実践(2)	「指導過程」「評価の観点」の設定	「指導案」の作成
10	国語科学習指導案の理解と実践(3)	実践「ごんぎつね」(物語)指導案の作成	授業構想の実践
11	国語科学習指導案の理解と実践(4)	実践「ごんぎつね」(物語)指導案の討議	授業構想の討議

3. 準備学習
授業の最後に、ミニペーパーを配布する。ミニペーパーに、当日の授業で学んだこと

4. 使用テキスト・教材等
小学校学習指導要領国語編(文部科学省)、小学校教科書「ごんぎつね」別刷。

5. その他(注意事項等)
教科書出版社から出されている「学習指導書(図書館蔵)」「学習指導案」作成のHPにも数多くの授業実践報告がなされているので参照されたい。履修者の持続的かつ

学習成果の観点別成績評価

19 (CE) 後期

6. 成績評価の進め方
「学習指導案」(30点)、「模擬授業」(20点)、「定期試験」(40点)に、授業への積極的参加(10点)を加えておこなう。
その他の評価方法: 学習指導案の作成

学習成果	到達目標	S	A	B	C	D	評価方法(%)
人間性 ①自己理解	自分のやるべきことの方角を自ら設定し、意欲的に取り組むことができる。						10
②向上心	自分のやるべきことの方角を自ら設定し、意欲的に取り組むことができる。						10
③表現力	自分のやるべきことの方角を自ら設定し、意欲的に取り組むことができる。						10
社会性 ④人間関係力	他者の気持ちを理解しながら、積極的に他者と関わり、協力的に活動することができる。						10
⑤常識・教養	社会や文化、自然に対して積極的な関心を持ち、考えを深めることができる。						10
専門性 ⑥使命感	教育・保育に対する熱意を持ち、教員・保育者の役割を理解し、そのために必要となる姿勢・態度を持つことができる。						10
⑦子ども理解	子どもの心身の成長・発達に関する知識を基に、多様な子どもを理解し、その内面を汲みとることができる。						10
⑧教育・保育構想力	教育・保育内容を理解し、具体的な教育保育構想・計画を立てられるとともに、実践後は、それを振り返り、反省評価することができる。						10
⑨教育・保育実践力	子ども及び保護者と適切に関わるために必要な知識・技能を修得し、それを実践することができる。						10
合計							100

多様な評価方法

ルーブリック評価

評価比率

④ 成績入力(e-ポートフォリオ)

成績はダミーデータです

成績入力(e-ポートフォリオ)

学年	科目	成績	評価
2018年度	国語科教育法	2.5	A

観点別成績を入力すると、自動計算で「成績評価」と「学習成果値」が入ります。
※ $4 \times 15 + 3 \times 20 + 2 \times 20 + 1 \times 25 + 3 \times 20 / 100 = 2.45$ (四捨五入) $\Rightarrow 2.5$ 成績評価 A \Rightarrow 成績記入表(手書き転記)

学習成果の観点別成績評価

⑤ ディプロマ・サプリメント

全履修科目の観点別平均値

東海大学短期大学部 ディプロマサプリメント

学習成果	2017年度・前期	2017年度・後期	2018年度・前期	2018年度・後期	実践活動Ⅰ	実践活動Ⅱ
人間性 ①自己理解	3.5	4.0	4.0	3.8	4	3.8
②向上心	3.2	3.4	3.3	3.4	5	3.4
③表現力	2.7	3.3	2.8	3.4	4	3.4
社会性 ④人間関係力	4.0	3.4	3.4	3.4	5	3.4
⑤常識・教養	3.5	3.4	3.7	3.5	5	3.5
専門性 ⑥使命感	3.2	3.5	3.6	3.3	6	3.3
⑦子ども理解	3.6	3.3	3.5	3.2	5	3.2
⑧教育・保育構想力	3.0	3.6	3.5	3.4	5	3.4
⑨教育・保育実践力	2.5	3.0	2.8	2.9	5	2.9

学習成果値

面談評価

学習成果の面談評価値

身についた実践力

⑥ 面談カウンセリング
半期に1回全学生に実施

e-ポートフォリオ 学習成果確認シート学生個票(例)

★当該学期に頑張る学習成果

アクションプラン 2017/04/24

面談カウンセリング内容(学習成果の達成確認/目標設定) \Rightarrow 学習成果に対する自己評価(ディプロマサプリメント)

⑦ 現場体験プログラム
毎週半日、全学生(2年生)が参加

e-ポートフォリオ キャリアインターンシップ 学生個票(例)

日付	自己設定課題	学生コメント	実践記録	教員コメント
2017/04/22
2017/04/29

受入先からのコメント入り実践記録

⑧ アセスメント

2018年度 観点別指標割合×観点別成績評価結果

観点別成績評価(平均値)/観点別指標割合(累積値)

17年(2018年度卒業生) 105名

1. 「自己理解」「人間関係力」に係る教育内容が少ないが、成績評価は一定水準以上あり、問題ないと考えられる。
2. 「表現力」は、教育内容が少なく、成績評価も若干低い。
3. 「子ども理解」「教育・保育構想力」も若干低いので、多くの授業で取り扱っている。今後、授業の質的向上が求められる。
4. 「教育・保育実践力」は、観点別成績評価値が最も低く、かつ授業での取り組みも少ないので、質的にも、量的にも見直しが必要である。 \rightarrow 2019年度課題

卒業生訪問アンケート結果(専門職90名・企業6名)

園・校等	件数(地域)	実施枚数(%)
幼稚園	23件(静岡県内16件・県外7件)	19件(82.6%) ※退職等による辞退4名
保育園	31件(静岡県内21件・県外10件)	30件(96.8%) ※退職等による辞退1名
こども園	21件(静岡県内15件・県外6件)	18件(85.7%) ※退職等による辞退3名
小学校	9件(静岡県内4件・県外5件)	9件(100%)
福祉施設	6件(静岡県内4件・県外2件)	6件(100%)
企業	6件(静岡県内4件・県外2件)	0件(0%) ※進路先からの辞退6件
全体	96件(静岡県内64件・県外32件)	82件(85.4%)

既卒者観点別評価平均点(専門職のみ)

自己理解 3.8
向上心 3.7
表現力 3.4
人間関係力 3.7
常識・教養 3.5
使命感 3.8
子ども理解 3.4
教育・保育構想力 3.4
教育・保育実践力 3.2

本学の取組成果と課題

- ディプロマ・サプリメントの活用
面談評価、学習成果値の相関確認 / 就職支援、学修支援ツールとして活用
- カリキュラムマネジメントの必要性
学習成果の見直し(バランス、観点) / 既卒者訪問結果のフィードバック / 各学期ごとの具体的な学習成果像の設定・提示の必要性
- FDの必要性
教員のシラバス作成スキル向上の必要性 / 学習成果の可視化による改善点の把握 / PDCAによる好循環へのプランニング

